小学校について

コンセプト
「開けた学校」

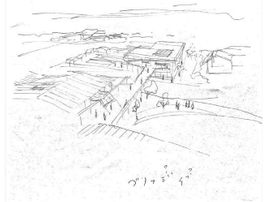
小学校に田んぼのイメージを落とし込む．私の出身の小学校がある地域は「千町田」と呼ばれ，広々とした田んぼが多くあることで有名な地域である．私の幼少期の通学路といえば，どぶか田んぼのあぜ道であった．あぜ道は，水をせき止め，田んぼを区画し，また田んぼ同士をつないでいる．

7月上旬の田んぼ　盛土され草が茂っている部分があぜ道

課題と解決
課題　小学校を中心とした場合のレクリエーション／文化施設の低密度な分布状況
解決　小学校に公共施設を集中させた近隣住区的計画

まず，地図などで周辺のコミュニティセンターやレクリエーションホールなどその他文化施設を見ると，小学校の周囲に近隣住区範囲の500－800m圏内に存在しないことが確認できる．そこで，社会活動やクラブ活動，レクリエーション活動のためのコミュニティ施設を小学校に複合化させることで児童と大人が利用しあう環境をつくり地域開放を成立させる．敷地周辺の文化施設，レクリエーションホール等の分布状況から鑑み，レクリエーションホール等の分布状況から鑑み，小学校には「子ども図書館」，「音楽アクティビティホール」，「テラスデッキ」および敷地全体を**まちのオープンスペース**として地域開放する．
（近隣住区計画論の6原則，「規模」は人口密度に依存するとされているが，その原則はないものとする）

市立図書館は2つ．双方，小学校を中心に3km程離れる



左　小学校のスケッチ．上から子ども図書館／プール棟，CR棟，音楽アクティビティホール／体育館棟の3棟によって構成．その3つを「あぜ道」と概念的に捉えたテラスが囲み，小学校全体に回遊性を生み，児童や一般の利用者に散策意欲を導き出す．

たてものの細かなこと

設計手法

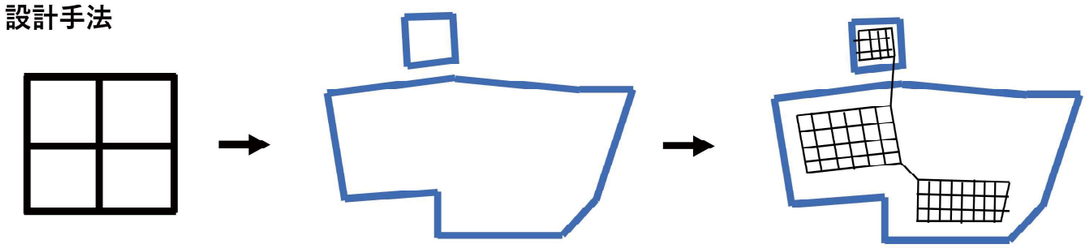


Fig1. グリッドによる柱配置

田んぼの正方形や長方形の区画割のシステムを，18クラス1,600㎡の限られたスペースに効率よく配するためにCR棟では，8000㎜角のグリッドをベースにプランニング．最多風向である東西方向に開口を設け自然喚起の可能性を探る．
グリッドでレイアウトした柱・梁は外部のテラスへもパーゴラとして拡張され，生徒のOSは内部空間のOSと外部空間のOSが連続し，生徒と地域が互いに外部のOSを共用する．

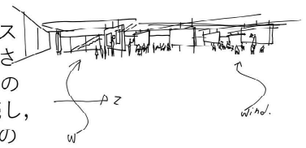


Fig2. 最多風向に向くCRの開口換気のイメージ

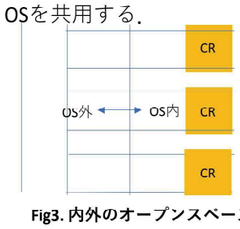


Fig3. 内外のオープンスペース

設計データ

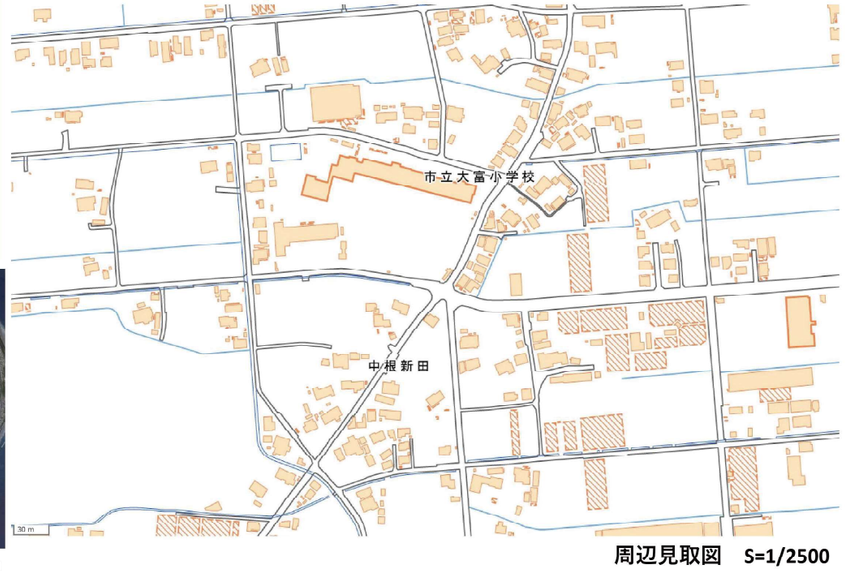
所在地／静岡県焼津市中根新田６３７
主要用途／学校
構造・構法
主体構造・構法　鉄骨構造（一部RC，木造）
基礎　杭基礎
規模
階数　地上2階
軒高　8321.92㎜
最高高さ　10,940.9㎜
敷地面積　北側敷地：1,857.16㎡　南側敷地：14,198.6㎡
　　計　16,055.76㎡
建築面積　6,893.076㎡
（建蔽率　43.0%　60%）
1階／6,075．779㎡
2階／2,607.76㎡
延床面積　8,683.539㎡
（容積率　54.08%　許容200%）

敷地（旧小学校）のこと

所在地／静岡県焼津市中根新田637

敷地周囲は田んぼと住宅が囲み，300㎡東にバイパスが通る．小学校南東敷地には私立幼稚園が隣接しており，運動会ではグラウンドを，夏には小学校のプールを利用する．当小学校の生徒は日ごろ，幼稚園児の気配を感じながら生活する特徴がある．
外構問題に敷地東側道路境界に，塀がはりつきその道路部分の幅員が最低限まで抑えられている問題がある．これは現状小学校の道路に面する方面各所で共通している．地域に開く小学校の一歩として，まずは本当の意味での敷地の公共化が必要であるだろう．

通学区域　最大圏内2.38km



周辺見取図　S=1/2500